

請願第14号	受理年月日	令和2年3月16日
付託委員会	教育文化委員会	
件名	化学物質による被害（香害）と学校での対策について	
要旨	<p>私たちグリーンコープ生協は生活協同組合として地域の中で生まれ、暮らしの視点で地域に根差した活動、事業を行ってきた。食べ物に対する取り組みから始まり、環境問題や平和活動、更には地域福祉、生活困窮者自立支援の取り組みなどへと広がっている。特に環境問題については、身体に与える影響という視点だけでなく、家庭からの排水で水環境を壊すことがないようにせっけん運動に取り組んでいる。</p> <p>しかし、一般的には強い香りの合成洗剤や柔軟仕上げ剤が世の中にあふれている。一方で、バスの中や隣家の洗濯物、学校給食のエプロン等のおいから体調不良や不快を訴える声も聞こえてくる。それを受けて、私たちグリーンコープ生協ふくおか北九州地域理事会では、組合員を対象に香害についてのアンケートを実施し、香害の実態を調査した。</p> <p>北九州市内に住むグリーンコープ組合員2,788名から回答があり、その中の6割以上の方から、香りについて不安がある、実際に香りで不快な思いをしたり、体調が悪くなったりしたとの回答があった。また、体調を崩した場面としては、全体でみると店内、社内という回答が6割を超えるが、小・中学生だけでみると給食エプロン、教室という回答が半数近くあった。</p> <p>更に保護者からは、給食エプロンにほかの家の柔軟剤等のおいがついていて、洗濯しても落ちないので不快、給食エプロンのおいで、給食を食べるときに気分が悪くならないか心配、子供からはほかの児童服や消臭スプレー等のおいで、湿しんが出て教室に入れないといった切実な声も上がっている。また、香り成分がもたらす、子供たちの身体への影響が気になる、教育委員会より啓発、指導してほしいという声が多数上がっている。</p> <p>このことを受けて、子供たちの環境を守るために、下記の内容を請願</p>	

する。

#### 記

- 1 衣服に付着している柔軟剤等の持続性の強い香りや、人工的な香料が使用されている制汗剤などによって、学校の教室はさまざまな香りが漂っている。その香りによって体調を崩したり、学習に集中できなくなったりする子供たちもふえている。保護者に向けて、香害による健康被害への理解と啓発を保健だよりなどで行っていただきたい。
- 2 給食時に着用する給食エプロンは、学校が準備し、学級で共有されており、当番の児童及び生徒が持ち帰り、各家庭で洗濯している。しかし、各家庭の合成洗剤や柔軟仕上げ剤などの香りが布繊維に付着して簡単には取れなくなっており、給食中の着用時や家庭に持ち帰ったときに健康被害を受ける人がいる。これを解消するために、給食エプロンを学校にある共用のものだけでなく、個人で準備することも選択できるようにしていただきたい。